

背景

苫小牧港では、昭和39年の新規計画以来、これまで5回の改訂を経て、現在は平成19年に改訂された、平成30年代前半を目標年次とする港湾計画に基づき港湾整備が進められている。

しかし、計画の前提となった社会経済情勢、物流動向が大きく変化していることから、現状の課題の解決を図り、今後とも苫小牧港が時代の変化に対応した役割を果たしていけるよう港湾機能の維持・強化が求められている。

目的

長期構想の検討・策定を通じて、概ね20年～30年後における苫小牧港が目指すべき姿を展望し、港湾の開発、利用及び保全の基本的な方向を検討する。

また、我が国・北海道の発展に寄与する“みなとづくり”を進めるため、概ね15年後を目標年次とする新たな港湾計画の素案を策定する。

目標年次

- ◆長期構想の目標年次は、概ね20年～30年後(平成50～60年頃)とする。
- ◆港湾計画(短中期)の目標年次は概ね15年後の平成40年代前半に設定。

検討体制

苫小牧港長期構想検討委員会

幹事会

事務局

お問い合わせ先

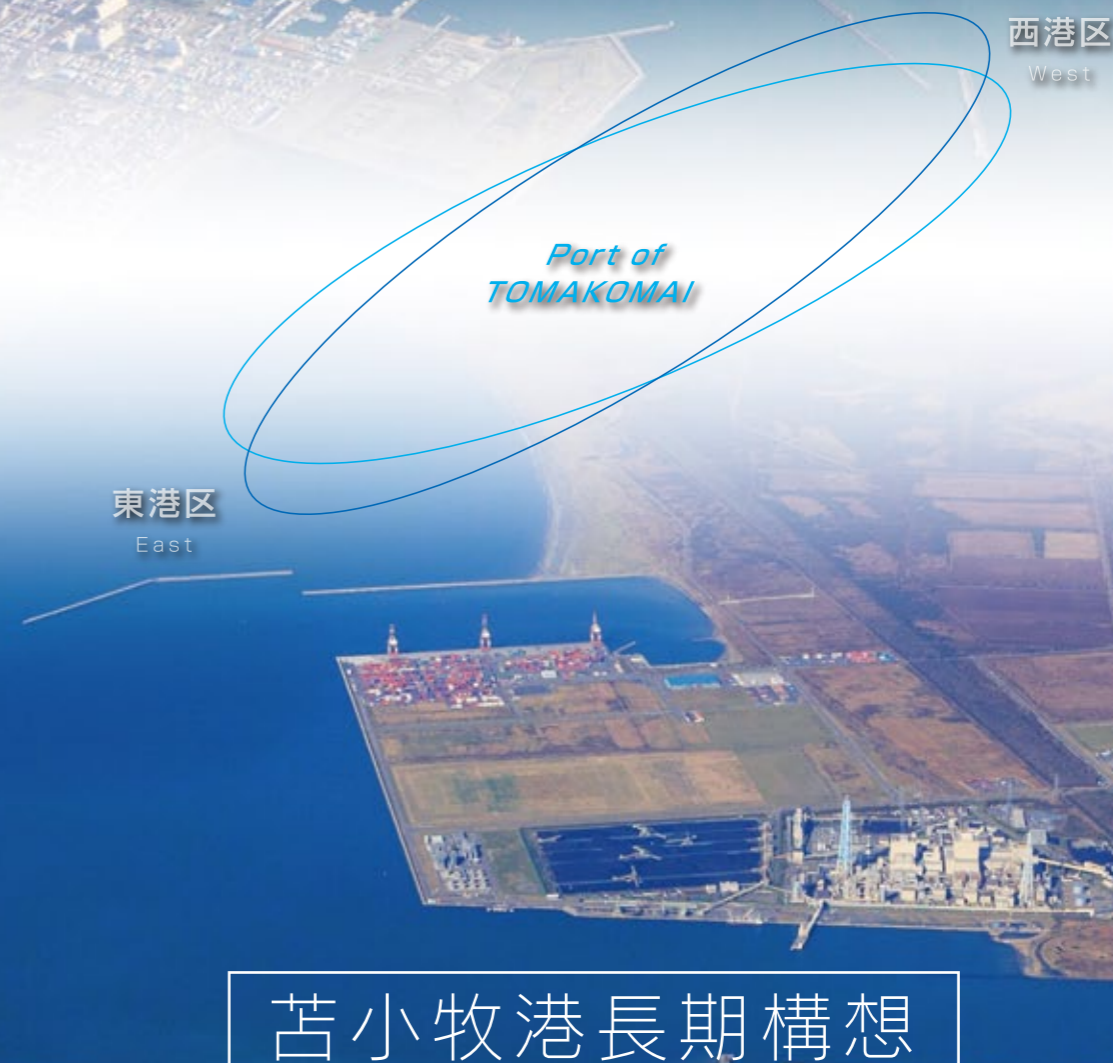
北海道と苫小牧市で組織する特別地方公共団体
苫小牧港管理組合
〒053-0003 苫小牧市入船町3丁目4番21号
TEL 0144-34-5551(代表) FAX 0144-34-5559(代表)
<http://www.jptmk.com>

北海道

苫小牧港

苫小牧港

将来の役割と目指す姿



苫小牧港の将来像・役割・施策

産業と暮らしを支える北の物流拠点
未来へとつなぐ 苫小牧港

苫小牧港の目指すビジョン

Smart Port

【北海道スマートポート】
～国内物流の効率化を先導する港～
広域分散型地域である北海道における
ドライバー不足に対応し、
情報共有・自動化により
物流生産性の飛躍的向上を目指す港へ

Food Port

【北海道フードポート】
～北海道の「食」を世界へ届ける港～
道産農水産品の高付加価値化を図り、
北海道の食を世界へと届ける港へ

Resilience Port

【北海道レジリエンスポート】
～道民・国民の命と暮らしを強くしなやかに守る港～
災害時における物流機能を維持し、
北海道・日本の生活を支える港へ



1 物流を未来へつなぐ 生産性向上のための物流体系の構築

生産性向上に資する複合一貫輸送拠点

- 展開施策1 次世代型ユニットロードターミナルの形成【内貿ユニット】
- 展開施策2 次世代型ユニットロードターミナルの形成【コンテナ】
- 展開施策3 既存ストックを活用した埠頭再編
- 展開施策4 ドライバー不足に対応する陸上輸送網の構築



2 食と観光を世界につなぐ 北海道の戦略的産業である「食」と「観光」への貢献

北海道の「食」と「観光」のゲートウェイ

- 展開施策1 「フードコンプレックス」の形成
- 展開施策2 水産物の輸出促進のための環境整備
- 展開施策3 国際クルーズ拠点の形成



3 安全・安心をつなぐ 北海道における物流の強靱化の推進

安全・安心な港湾機能を確保した海上物流拠点

- 展開施策1 フェリーバースの大規模地震対策
- 展開施策2 被災地救援の輸送拠点としての活用



4 環境を未来へつなぐ 低炭素社会の構築への貢献

環境負荷軽減に資するエネルギー拠点

- 展開施策1 SOx規制に対応する船舶への燃料補給機能の導入
- 展開施策2 水素エネルギーの供給・受入施設の配備
- 展開施策3 苫東への立地を促進する東港区の機能強化



5 北極海とアジアをつなぐ 北極海航路の地域的ハブ機能の構築

北極海航路の地域的ハブ港

- 展開施策1 北極海航路のアジア側におけるゲート機能の形成



6 地域の賑わいをつなぐ 賑わいを提供するみなとまちづくり

市民と観光客がふれあう賑わい拠点

- 展開施策1 ふれあい観光スポットの強化



